

## 「七十二人を派遣する」

2023年06月02日

その後、主はほかに七十二人を任命し、ご自分が行こうとするすべての町や村に二人ずつ先にお遣わしになった。そして、彼らに言われた。「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫のために働き手を送ってくださるように、収穫の主に関心なさい。行きなさい。私があなたがたを遣わすのは、狼の中に小羊を送り込むようなものである。」（ルカ 10：1～3）

主イエスの「神の国」の宣教は佳境に入ってきた。十二弟子の他に七十二人を任命し、行きたいと思っていた町や村に、二人一組にして遣わした。歴史的事実とは思えない。宣教が求められたことを強調した著者ルカの記述であろう。彼らに、「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫のために働き手を送ってくださるように、収穫の主に関心なさい。行きなさい。私があなたがたを遣わすのは、狼の中に小羊を送り込むようなものである」と言われた。人生に飢え渴き、疲れ切った人々は大勢いるが、彼らに神の祝福を告げ、生きる勇気を与える「神の国」を告げる宣教者は少ない。困窮した民衆を救うための働き手（宣教者）を送ってくださるように、神に関心なさいと言われて、七十二人に「行きなさい」と命令し、遣わしている。その時、始めに「私があなたがたを遣わすのは、狼の中に小羊を送り込むようなものである」と言っている。世の人は狼のように凶暴で、自己中心である。その中に、素直で、身を守る武器を持たない小羊のようなあなたがたを遣わす。マタイ福音書は、その次に、「だから、蛇のように賢く、鳩のように無垢でありなさい（マタイ 10：16b）」と付け足している。狼の中に遣わされるのだから、蛇のような賢さが必要であるが、神への信仰において、鳩のように無垢であれと諭している。

主イエスは宣教に遣わすに当たり、十の注意を与えている。①財布も袋も履物も持って行くな。素手で宣教しなさいと命じている。宣教にはあれがあればと思うが、神が必要を満たしてくださるからである。②誰にも挨拶するな。これは、宣教は急務であるから、時間を取る無駄な挨拶はするなどの意味ではないか。③家に入って、まず「この家に平和があるように」と言いなさい。宣教はシャロームを一軒一軒回って告げるのである。神のシャロームが人を平和へと導くからである。④神のシャロームを受け止める家であれば、その家に平和が留まる。もし、受け止めない家であるならば、平和はあなたがたのところに戻ってくる。シャロームの祈りが拒否されたら、腹立たしくなるが、神の平和があなたがたに返ってくる。⑤一つの町や村に入ったら、一軒の家に留まり、その家を出される物を食べ、飲みなさい。神の国の宣教のために働く者が報酬を受けるのは当然である。⑥留まった家は、その町の宣教が終わるまで、変えてはならない。待遇の良い家を求めて、変えるようなことをしてはならない。⑦迎え入れられたら、差し出される物を食べなさい。⑧町の病人を癒やし、「神の国はあなたがたに近づいた」と言いなさい。宣教の中心は、この言葉にある。病人を癒やし、自立を促す。そして、神の国の到来が近いことを宣言する。⑨町に入って、迎え入れられなければ大通りに出て「足に付いたこの町の埃さえも払い落して、あなたがたに返す」と言いなさい。埃を払い落とすことは、汚れた町から出て行く時にする行為である。宣教を受け入れない町には、敢然と拒否の態度を取りなさい。終末の日には、火と硫黄で焼かれたソドムの方がまだ軽い罰で済む。しかし、⑩「神の国は近づいたことは知っておけ」と、神の国の到来の近いことを宣言しなさいと命じられた。